

令和4年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和5年2月1日作成

中 期 目 標	重 点 努 力 目 標(評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善策 次年度への課題 (★学校関係評価を受けて)
「魅力あふれる教育活動」を展開する	子ども主体の活動	わくわく感のある、子ども主体の活動を創造する。	A	A	・担任がきめ細かな指導を行うことができた。日々の様子を保護者に伝えることができているため、保護者の評価が高かった。 ・「帰りの会」等で、今日のがんばっていた人を発表する機会を各学級で設けることにより、他から認められることが意識でき、自己肯定感につながっている。 ・タブレット等の活用が、調べ学習に効果を上げている。	A	・主体性を伸ばす教育はよい。 ・昨年に比べ、登校時に挨拶が聞けるようになった。地域の方からも下校時に挨拶をしてくれたと聞いている。気持ちのよい挨拶ができています。	・子どもたちの実態をふまえ、今後も子ども主体の教育活動、行事を計画していく。 ・学級経営が円滑に進むように、保護者への連絡等を活発に行い、信頼関係を築く。 ・子どもの自己肯定感を高めるように、認める・励ますことを重視する。 ・現研等でSSTを学ぶ機会を設定し、子どもどうしでも上手に生活できる基盤を作っていく。 ・ICTの研修を図る。
	読書好きな子の育成	・図書館の充実や読書指導の充実を図る。	B		・司書の選書により、子どもの図書館利用が増え、本を手取る子どもが増えた。 ・担任の声がけや図書館活用が、子どもの意識向上につながっている。		・家庭でも読書の習慣が身につくとともに、週末に呼びかけるなど、本に親しむ声かけをしてはどうか。 ・タブレットを有効活用し、リモート授業の充実を図ってほしい。	・図書館利用状況をさらに伸ばせるように、発達段階に応じた圖書の選定と、授業に役立つ資料の充実を図る。 ・担任が関心をよりもてるように、図書館からの連絡をこまめに行う。
	あいさつ・感謝のこころの習慣化	・あいさつ、感謝の思いがその場に応じて表せるように、日々の指導に努める。	A		・地域の方の挨拶運動では、元気よく朝の挨拶ができています。 ・朝や帰りの挨拶は、元気よくできる子が多い。			・子どもたちはできていると考えていることがわかった。授業等で「おはようございます」や「さようなら」だけではなく、挨拶やその意義の理解を進めていく。
豊かな心と良好な人間関係を築く力を育成する	基礎基本の定着と関わり合い	・「読み、書き、計算」を中心に、練習を継続して繰り返し、基礎基本の徹底を図る。 ・関わり合う学びをとおして、伝える力や受け取る力を育成する。	A	A	・チャレンジタイムやコンクールが基礎学力の定着につながっている。 ・「聞くこと」については、昨年同様できていると感じている児童の割合は高い。 ・「発言」については教師と子どもにすれがあった。「発言」の際に、聞き手側を見て話をする児童が増えてきたことは、「お話タイム」や話し合い活動での指導の成果と考える。	A	・基礎は大事。相手の話をちゃんと聞いて理解できる評価が高いことはすばらしい。 ・学校に行くと、子どもたちが真剣に楽しそうに掃除をしていて、いつもよい気持ちになる。 ・縦割り活動はよいと思う。	・子どもが主体的に学ぶ授業の改善を引き続き行っている。 ・基礎基本の徹底・定着を目ざす。まちがいをもその場で直させる指導を心がけていく。 ・子どもの向上心を刺激しつつ、話すことや聞くことの楽しさ、さらには話し合うことで深まる楽しさを実感させていく。話したいと思えるまで、自己の学びや調べ学習を充実させる。タブレット等の活用を更に研究していく。
	良好な人間関係	・黙働清掃の励行 ・縦割活動を推進し、仲間と関わる力や他を思いやる優しい心を育てる。 (年間計画への位置づけ、計画的・継続的な取り組み)	B	A	・児童会の子が地域の方と一緒にあいさつ運動を行い、自分から進んであいさつできるように全校児童に呼びかけている。 ・各委員会から学校生活を楽しむための提案が出され、活発な児童会活動が行われた。 ・児童会ではレンジャーショーを行い、低学年の子との交流もあった。	A	・年々児童の体力の低下傾向がすすんでいるので改善に取り組むのはよいと思う。運動を通して健康な体づくりをお願いしたい。	・児童会だけでなく、多くの子があいさつ運動に参加できるように企画していく。全校児童が参加できる委員会企画を増やしていく。
	健全な体づくりと子どもの安全意識の高揚	・年間を通して、体を動かし鍛える機会を系統的に位置づけ、計画的に運用する。 ・自分の命を自分で守る実践力を身につける。	A	A	・体育的行事に積極的に参加する様子が見られた。休み時間に全校で運動に取り組む時間を作り運動の機会を増やすことができた。日常的に竹馬・一輪車などの遊具を体育倉庫前に出し、いろいろな運動ができる環境づくりに努めた。 ・昨年度と比較し、安全に気をつけて登校できている児童が多いことから、「安全の誓い」の唱和をすることで、児童は安全について考えることができた。	A	・交通ルールの理解はできていると思うが、実践は難しい。地域の方からの声が寄せられることもある。集団登校がルールになってきているように感じる。狭い歩道の一列歩行をルール化してほしい。	・運動委員により縄跳び、一輪車、竹馬などのやり方を積極的に伝える機会を設けるなどすることで、児童の興味関心を高めるようにする。 ・朝の会や帰りの会、通学団会において安全に登下校できているか確認および指導を行う。 ・引き続き「安全の誓い」の唱和を下校前に行う。 ・歩道の歩き方のルールを再確認する。
信頼される教師集団を育てる	教職員の指導力・授業力向上	・教職員研修の充実 に努め、教え合い、学び合う風土を醸成し、指導力・授業力を高める。	A	A	・「わたしは、授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役立つ」と思っています。」が高いことから、生活と結びつける学習ができている。 ・授業研究会は、どの授業も、子どもの思いや疑問を大切にした問題解決的なもので、学び多き研修となった。問題を解決していく楽しさやスキルを身につけさせることができた。	A	・忙しい中、子どもたちのために行事等考えていただき、感謝している。教職員の努力を感じる。 ・合理化・スリム化による教職員の負担減を望む。	・引き続き問題解決学習に取り組んでいく。 ・SDGs等、今日的な課題に関する単元も構想していく。 ・コロナ禍であるが考えることを考え、できることを実践し、「主体的・対話的で深い学び」をすすめていく。
	多忙化解消と業務改善	・指導の合理化と質の向上を図り、あわせて多忙化解消に努める。	A	A	生活サポート委員会や現職研修等を通して、学習指導や生徒指導に全職員の共通理解のもと取り組むことで指導の合理化と質の向上を図ることができた。行事については、そのねらいを明確にすることでスリム化を図った。		・担任以外でも気軽に相談できる環境づくりや支援をお願いしたい。	・引き続き、学習指導や生徒指導に全校体制で取り組む。行事に関して、本年度の反省をもとに、そのねらいを明確にしスリム化を図る。
家庭・地域と結びついていた教育活動を	学校からの情報発信	・学校の方針や情報を速く、わかりやすく発信する。	A	A	ホームページに加え、学校だよりを校区回覧することで保護者だけでなく、地域の方にも学校の様子がわかるように努めた。保護者の評価も昨年度に続き、80%を超えることができた。全校行事や保護者参加できる行事も少しずつコロナ禍前にもどすことができた。	A	・メール・HP更新が迅速で学校の様子や予定が受け取りやすく大変よい。 ・量より質で。 ・HPの写真で学校生活の様子がわかり楽しみにしている。学期ごとに写真を載せるともっと閲覧数が増えるかも。	・HPや学校だより、学年通信等、引き続き学校からの情報発信に努める。全校行事や保護者参加のできる行事を検討し、顔を合わせることで保護者・地域の方との距離を縮めていく。
	地域の教育力・教育資源の活用	・地域の教育力(人)と教育資源(自然・施設)を積極的に活用する。 ・家庭と連携しながら学習習慣の定着を図る。	A	A	・コロナ禍ではあるが、できることを模索し、できることを工夫して校区探検や米づくり、天伯原の開拓の学習などでは地域の方と連携し学びを深めることができた。 ・家庭学習は、ほぼできるようになっている。			・学校支援ボランティアの活用や、地域の人的資源を探り、さらに地域との連携を深めていく。 ・家庭学習の数値が保護者と子どもの間で若干のずれがある。今後も保護者との連携を図り、学年だより・学級だより等で情報を発信していく。

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】